世界がん撲滅サミット

2025 in 大阪・関西万博

World Cancer Eradication Summit in EXPO 2025

https://cancer-zero.com

最先端科学技術と公益資本主義の理念で「がん撲滅」を成し遂げよう！

2025 10.5 SUN 14:00-16:30 at テーマウィークスタジオ

テーマウィークスタジオ　当日ライブ配信YouTube

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO2025

主催 世界がん撲滅サミット2025 実行委員会

共催 アライアンス・フォーラム財団

後援 外務省／厚生労働省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／総務省／農林水産省／デジタル庁／国立研究開発法人日本医療研究開発機構
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所／一般社団法人日本癌学会／大阪府／大阪市／高石市／兵庫県／京都府／奈良県／滋賀県／公益社団法人日本医師会
一般社団法人大阪府医師会／大阪府医師協同組合／一般社団法人日本経済団体連合会／日本商工会議所／公益社団法人経済同友会／公益社団法人関西経済連合会
大阪商工会議所／一般社団法人関西経済同友会／日本製薬団体連合会／一般社団法人日本建設業連合会／一般社団法人不動産協会／一般社団法人住宅生産団体連合会
一般社団法人生命保険協会／一般社団法人日本損害保険協会／一般社団法人ソフトウェア協会／一般社団法人Medical Excellence JAPAN／読売新聞社
（順不同）

協賛 ロート製薬株式会社／株式会社ツムラ／東レ株式会社／ダイダン株式会社／TOTO株式会社／三井住友海上火災保険株式会社
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン／アライアンス・フォーラム財団／未来トラスト株式会社／アーク不動産株式会社／OSPグループ／ジャパンエステート株式会社
株式会社アドバンス／都市環境開発株式会社／メディカルサービス株式会社／株式会社イデラキャピタルマネジメント／日本地工株式会社
株式会社オキ・コーポレーション／株式会社重岡／岡山県極真空手道連盟　ほかの皆様
（順不同）

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO2025
世界がん撲滅サミット2025実行委員会は、大阪・関西万博の テーマウィークパートナー です
©Expo 2025
Cancer Zero

高円宮妃殿下お言葉

本日は第１回がん撲滅サミットの開催が盛大に開催され、皆様とご一緒できますことを大変うれしく思います。

日本では２人に１人ががんにかかり、３人に１人ががんで亡くなると言われており、あらゆる病気の中で最も死亡率が高いとうかがっております。1981 年より日本人の死因第１位を占めており、国民病ともいえるかもしれません。がんは全身のあらゆる部位で発症いたしますし、初期には自覚症状がないため、今でも発見されたときにはすでに進行していて、治療が遅れるケースが多くあります。しかし、早期発見により、完全に治療、治癒することも可能な病です。

医学とがんの闘いは実に長い歴史を持っており、がんの最初の記録は紀元前 1500 年ごろの古代エジプトの医学書にあります。そして紀元前 1400 年ごろ、古代ギリシャの医聖ヒポクラテスががんに蟹（かに）を意味するカルキノスという名前をあてがえました。その数百年後に医学論を書いた学者のアウルス・コリネリウス・ケルススがカルキノスをキャンサーとラテン語に訳したのです。英語では今でもがんのことをキャンサーと呼びますが、発がん物質を意味するカルシノシンはヒポクラテスのカルキノスが語源です。

これだけ長く闘っているのですから、がんは医学にとって永遠のテーマであり、人類は終わりなき闘いを繰り広げていく運命にあるのかもしれません。進化医学の出番も増えるのかもしれません。

いずれにしろ何事においても、攻めなければ負けしかない中、がん撲滅を目指すぐらいの意気込みが必須と感じます。お身内にがん患者がいらっしゃる作家でジャーナリストの中見利男氏の「オールジャパンでがん撲滅に立ち上がろう」という呼びかけに、医学医療のみならずあらゆる分野の方が賛同されたことによって、ここに新たな挑戦が始まるのを心強く思っております。同じ志を持った多くの人間が同じ方向に動けば、大きなエネルギーがうまれます。

かかげておられる目標の中でも、特にがん最先端医療において個々の患者、治療へ直結する医療のベストミックスを早急につくりあげていくことは重要であり、医師力を増進するのは当然として、患者力の向上を目指すのは実に意義深いことと考えます。

がんに関する先端医療や名医に関する情報を発信することや、患者主体の治療が出来る社会を再構築すること、患者や家族が的確な決断の出来る医療社会を再構築することなど、患者とその家族の立場に立って考えるのは日本の医療の本質ではないでしょうか。

インターネットを駆使したシステムや遠隔医療、遠隔治療などを含む医療は、日本のみならず医療の十分ではない国や地域に希望の光となることでしょう。その昔、医学においては視野を広く持つことが普通でしたが、研究がめざましく進み、医学が進歩した今日では分野ごとに孤立してしまっています。人間は社交的な動物であり、優れたコミュニケーション能力を有していますので、新しい時代の医療には皆がアクセスできる引き出しの多い総合的に意見交換が速やかにできる環境が整備されることを期待しております。

本日のがん撲滅サミットが学術的に実りと発展性のある大会となりますよう、またがんの撲滅、及びがん偏見の撲滅に一日でも早くつながりますよう心より願って開会式に向ける言葉と致します。

（2015 年 6 月 9 日開催の第１回がん撲滅サミットにご来臨を賜りました）

世界がん撲滅サミット2025 in 大阪・関西万博　PROGRAM

14：00　**開場　大阪・関西万博　テーマウィークスタジオ**

14：30 ～ 14：40　**【来賓ご挨拶】**

内閣総理大臣　**石破 茂** 様

（代読並びにご挨拶）内閣総理大臣補佐官　**森 昌文** 様

大阪府知事　**吉村 洋文** 様

【来賓ご紹介】

基調講演

14：40 ～ 14：55　**「大村天然物と創薬 Omura natural products & Drug Discovery」**

北里大学 学長　**砂塚 敏明** 氏

トークセッション

14：55 ～ 16：15　**【がん撲滅に向けた未来戦略とは？】**

司会進行　**原 丈人** 氏

登 壇 者

北里大学 学長　**砂塚 敏明** 氏

米国国立がん研究基金（NFCR）理事長　**スジュアン・バ** 氏

香港大学副学長、医学部長　**チャクシン・ラウ** 氏

シカゴ大学教授　**マークJ．ラテイン** 氏

16：15 ～　**「世界がん撲滅 大阪・関西万博宣言 2025」**

16：30　**閉会**

世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博 開会式
ご来賓ご紹介

内閣総理大臣	石破　茂 様
（代読並びにご挨拶）内閣総理大臣補佐官	森　昌文 様
大阪府知事	吉村洋文 様
大阪府・大阪市特別顧問、元内閣総理大臣補佐官	和泉洋人 様
『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』特別顧問 元厚生労働事務次官、元内閣官房 政策参与	二川一男 様
一般社団法人 大阪府医師会 会長	加納康至 様
公立大学法人 大阪 理事長	福島伸一 様
『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』顧問 株式会社 エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長	清水美溥 様
株式会社 ツムラ 代表取締役社長 CEO	加藤照和 様
西日本旅客鉄道 株式会社 代表取締役会長	長谷川一明 様
日本電子 株式会社 相談役	栗原　権右衛門 様
一般社団法人 mother ha.ha 代表理事	大崎　洋 様
大阪国際がんセンター 乳腺・内分泌外科 主任部長	中山貴寛 様
東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座 特任教授	上園保仁 様
銀座並木通りクリニック 院長	三好　立 様
東京科学大学 物質理工学院応用化学系 教授	田中克典 様
株式会社 ヤクルト 本社中央研究所 微生物研究所 上席研究員	髙木陽光 様

ほか〈順不同〉

大会長 ご挨拶

原　丈人

『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』大会長
アライアンス・フォーラム財団 会長
（国連経済社会理事会の特別協議資格を有する合衆国非政府機関）
香港中文大学医学部栄誉教授、大阪大学医学部大学院招聘教授
香港理工大学工学部栄誉教授、大阪公立大学特別客員教授

『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』大会長としてご挨拶申し上げます。

今年は、世界がん撲滅サミットを「2025 年大阪・関西万博」の会場という特別な舞台で開催できることを大変光栄に存じます。

この特別な式典に、がん医療に関わる医療従事者、研究者、学者、医療業界、政府関係者、そして病と闘っておられる皆さま、そのご家族の皆さまが一堂に会し、いのち輝く未来社会に向けて「がん撲滅」という共通の目標に向かって思いを共有できることに、深い感謝と敬意を申し上げます。

私たちががんを撲滅し、すべての国民が健康に生きられる社会を作っていくためには、いま全世界で深刻化している「格差社会」「分断された社会」を生み出す原因となっている「英米型の株主資本主義」の考え方では実現できません。この株主資本主義が作り出す社会は、一部のごく少数だけに富を集中させ、中間所得層を弱体化させ、結果、大多数の国民を貧困にし、健康だけでなく教育も安全も、最悪の場合には命すらも奪ってしまいます。

悪化する各国の社会環境を見て私は、社会や産業を支えている各企業を「社会の公器」と定義し、企業が稼いだ富は企業の成長、発展に貢献した従業員、取引先、お客様、そして地域社会、地球、株主に公平に公正に分配し中間所得層の豊かな社会を実現する「公益資本主義の考え方」を生み出し、1985 年から社会実装に向けて活動しております。

公益資本主義の考えを元に国が制度を整え、若い人たちの所得を増やし、安定した職につける環境を作れば、結婚しやすくなり、暮らし向きが安定すれば子を産み家族を持つことにも目が向き人口減少を解消できます。格差・分断の問題を解決し一般国民の暮らし向きを良くすることが出来る「公益資本主義」と「科学技術」の力で日本はじめ世界中の人々の健康、教育、衛生、命を守り、社会を豊かにしたいと考えております。

2025 年の今日、私たちは技術の進歩をまさに目の当たりにしています。AI技術の活用により、免

疫療法や細胞療法は飛躍的に進化し、液体生検やバイオマーカーを用いた個別化医療も日々実用化が進んでおります。これらは、長年にわたり粘り強く研究と実践を重ねてこられた皆さまの不断の努力の結晶にほかなりません。

がんという病は、人類全体で挑む課題であり、国籍や立場を越えて志を同じくする仲間同士が連携することが大切です。「誰かがやってくれる」ではなく、各人が自ら先頭に立って目の前の課題に挑み、現場で得られた知見、技術、工夫を持ち寄り、集結させることが大切です。この工夫の積み重ねこそが、「すべての国民が天寿を全うする直前まで、健康であり続ける社会」を実現するための大きな礎になると信じております。

皆さんが技術開発、制度づくりを行うときには、病と闘っておられる患者さんやご家族、実際に治療にあたる医療従事者がどんなことに困っていて、どんな助けや情報、技術、制度を求めているのかという現場の実態を踏まえた視点がとても重要です。自分たちが儲かるから安全性、品質を二の次にするなどという姿勢は、絶対に持ってはいけません。

そして、たとえどれほど革新的な技術が生まれようとも、一部の人、地域、国だけが恩恵を享受していては意味がありません。すべての国の国民が公正に恩恵を受けられる制度、仕組みを構築し、きちんと社会に根づかせ、その医療、技術、医薬、情報を必要とする患者さん一人ひとりのもとに迅速に届けていくことが重要です。

がんという病と闘う日々は、常に緊張感や不安と隣り合わせかと思います。思い通りにいかないこと、時にはつらくて心が折れそうになることもあるのではないでしょうか。

けれど、その「うまくいかなかった経験」や「悔しさ」の一つひとつには、次への学びがあり、成長の種があり、未来の成功の可能性が潜んでいると、私は信じています。

心がくじけそうなときほど、どうか思い出してください。私たちは決してひとりではありません。すぐ隣には、同じ思いを共有する仲間がいます。チームで支え合い、助け合うこと。それが、どんな難局も乗り越えるための大きな力になります。

患者さんの命を預かる、がんで苦しむ人を世界から撲滅するという重責の中で、私たちは日々、答えのない選択に迫られることもあります。しかし、そんな厳しい現場だからこそ、私たちの小さな一歩一歩が、誰かの人生を大きく変える力になるのです。

ですから、ご自身と仲間を信じて、歩みを止めずに進んでいきましょう。

本式典が、皆さまの英知と情熱が交差する場となり、がん医療のさらなる進化と社会実装に向けた新たな一歩を踏み出す機会となることを、心より願っております。

今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

内閣総理大臣 メッセージ

石破　茂

内閣総理大臣

『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』の開催、誠におめでとうございます。

本年は、大阪・関西万博の機会をとらえ、がん撲滅を目指して、世界中の方々と連携し、サミットを実施されること、心より敬意を表したいと思います。

我が国は、世界最高水準の平均寿命を達成し、人類の誰もが願う長寿社会を現実のものとしました。これからは、人生 100 年時代を見据え、健康長寿社会を更に進展させることが重要な政策課題です。

そのため、政府としても、全閣僚からなる健康・医療戦略推進本部の下、医療分野の先端的研究開発や新産業創出等を推進し、健康寿命の更なる延伸の実現に向けた取組を進めています。

中でも、昭和 56 年から死因の首位を占めてきたがんへの対策に関しては、令和５年３月に第４期の「がん対策推進基本計画」を閣議決定いたしました。基本計画では、①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実、②患者本位で持続可能ながん医療の提供、③がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築、を３本の柱として、総合的な取組を定めています。

加えて、本年６月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2025」（骨太の方針）では、がん対策の推進のほか、全ゲノム解析等の推進などが盛り込まれています。

これらに基づき、がん対策の推進について、女性の負担にも配慮した乳がん検診の推進など科学的根拠に基づくがん検診の実施、医療提供体制の均てん化と集約化の推進、がんゲノム医療の推進、アピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築等の対策を進めます。

また、全ゲノム解析等の推進については、戦略的にデータの蓄積を進め、それらを用いた研究・創薬などを促進するとともに、将来的な「がん・難病等の克服」を目指し、解析結果の日常診療への早期導入や、新たな個別化医療の実現に向けた取組についても更に推進します。

これらの施策により、いつ、どこにいても安心して納得できる医療や支援を受けられるよう引き続き取り組み、がんを克服した、活力ある健康長寿社会を形成していきたいと考えています。

最後に、本会合がご参加の皆様にとって実り多きものとなることを心から祈念いたしまして、私のメッセージといたします。

厚生労働大臣 メッセージ

福岡　資麿

厚生労働大臣

『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』の開催、誠におめでとうございます。がん患者や御家族の皆様をはじめ、医療従事者や医学研究者及び企業の方々等が一堂に会して、「がん撲滅」を目指し、「いのち輝く社会」の実現に向けて議論を行うことは大変意義深いものと考えています。開催に御尽力された関係者の皆様に、深く敬意を表します。

我が国においては、国民の約２人に１人が生涯のうちにがんに罹患し、昭和 56 年から死因の第１位であり続け、現在も４人に１人ががんで亡くなるなど、がんは国民の生命と健康にとって重大な問題です。

厚生労働省としては、令和５年３月に閣議決定された「第４期がん対策推進基本計画」に基づき、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」を全体目標としています。「オールジャパンでがん撲滅」に取り組む本サミットは、この全体目標の趣旨にも合致するものと考えております。

また、本計画では、「がん予防」、「がん医療」及び「がんとの共生」を３本柱とした総合的ながん対策を進めています。

「がん予防」対策としては、がんのリスクの軽減、がん検診の受診率や精度管理の向上、科学的根拠に基づくがん検診の推進等に取り組みます。特に、がん検診の受診率については、第４期基本計画において目標値を 50% から 60% に引き上げており、更なる受診率向上を目指します。

「がん医療」対策としては、がん医療が高度化する中で、引き続き全ての国民が質の高いがん医療が受けられるよう、地域の実情に応じた均てん化を推進するとともに、持続可能ながん医療の提供に向け、拠点病院等の役割分担を踏まえた集約化を推進します。

「がんとの共生」対策としては、治療を継続しながら社会生活を送るがん患者が増加する中で、治療に伴う外見変化に対するサポートが重要であることから、拠点病院等を中心としたアピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築等に取り組みます。

また、がん研究については、令和５年 12 月に「がん研究 10 か年戦略（第５次）」を策定し、引き続きがん対策の基礎となる研究のより一層の推進を図ります。

最後になりますが、本サミットの成功と本日お集まりの皆様方の今後ますますの御発展、御健勝を祈念いたしまして、私からの御祝いの言葉といたします。

大阪府知事 メッセージ

吉村　洋文

大阪府知事

「世界がん撲滅サミット2025 in 大阪・関西万博」が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。また、本サミット開催に御尽力された実行委員会や事務局の皆様をはじめ、関係者の皆様に深く敬意を表します。

今年度の「世界がん撲滅サミット」が開催される大阪・関西万博の会場では、ライフサイエンスやカーボンニュートラルをはじめとする世界最先端の技術が披露され、大阪が世界から注目を集める千載一遇の機会となっています。こうした万博の成果を結実させ、日本の持続的な成長・発展につなげることが万博のレガシーとなります。府民一人ひとりの健康に対する意識の向上や、行動変容を促す取り組みを引き続き展開することで、万博後においても、府民の主体的で継続的な健康づくりが促進されるよう努めてまいります。

がんは、我が国における死因の第１位であり、府内においても年間約７万人の方々が新たにがんにり患し、約２万６千人の方ががんで亡くなるなど、府民の生命、健康、生活にとって大きな脅威となっています。

こうした中、大阪府では、昨年３月に「第４期大阪府がん対策推進計画」を策定し、基本理念として「がんになっても適切な医療を受けられ、安心して暮らせる社会の構築」を掲げ、その実現に向け、「がん死亡率の減少」、「がんり患率の減少」、「がん生存率の向上」、「がん患者や家族の生活の質の維持」を全体目標として様々な施策を展開しているところです。引き続き、関係機関や専門家の皆様方とも連携し、更なるがん対策の推進を図ってまいります。

最後になりましたが、本サミットの盛会を心よりお祈り申し上げますとともに、本日お集まりの皆様のご健勝、ご多幸を祈念し、ご挨拶といたします。

大阪市長 メッセージ

横山　英幸

大阪市長

「世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博」の開催を迎えられますことを、心からお慶び申し上げます。また、本サミットの開催にあたりご尽力されました関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、世界各地と連携し、世界に向けた発信の場として引き続き大阪の地で開催されますことに感謝申し上げます。

本サミットの会場でもある『大阪・関西万博』は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに158 の国と地域が参加し、未来に向けた技術やサービスが紹介されるだけではなく、新たな産業の創出や SDGs を実現し、また、ビジネス交流や文化交流などにより海外とつながりが生まれる絶好の機会であり、これら一つひとつが今後 50 年、100 年と続いていくレガシーになると確信しています。

日本では、生涯のうちに約 2 人に 1 人ががんに罹患し、約 4 人に 1 人ががんで亡くなっています。本市におきましても、長きにわたってがんが死亡原因の第 1 位であり、がん対策の推進は重要な課題となっております。

本市では、大阪市健康増進計画「すこやか大阪 21（第 3 次）」におきまして、「全ての市民がすこやかで心豊かに生活できる活力あるまち、健康都市大阪の実現」をめざしています。がん対策としましては、がんの予防、がん検診の受診率向上、がんとの共生に関する取り組み等を推進し、市民のがん検診受診率 60％を目標に掲げています。

今年度は、市民の受診の動機付けとなり、受診行動を促し、がんの早期発見・早期治療につながる取り組みとして、昨年度に引き続き本市がん検診受診者に対するインセンティブ付与などの取り組みを実施し、がん検診のキャンペーンを展開しているところです。

また、がん患者の治療と社会参加を両立することで、療養生活の質の向上を図れるように、がん治療に伴う脱毛や乳房の喪失といったアピアランス（外見）の変化へのケアに対する支援も実施しております。

万博を機に、より一層がん対策に積極的に取り組み、「健康都市大阪」の実現をめざし、市民の皆様とともに健康づくりを進めてまいります。

最後になりますが、本サミットが実り多きものとなりますようご期待申し上げますとともに、ご参加の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いのメッセージといたします。

中村　祐輔

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長
東京大学 名誉教授、シカゴ大学 名誉教授

このたび「世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博」が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。がんは、1980 年以降我が国の死因の第 1 位となっている病気です。言うまでもなく、人類にとって最も深刻な疾患のひとつですし、患者本人のみならず家族や社会にも大きな影響を与える極めて重要な課題です。その撲滅を目指す本サミットの開催は、まさに時宜を得た意義深い取り組みであり、深く敬意を表します。

これまでの、特に 21 世紀に入ってから、研究の大きな進展によって、がんの予防、早期発見、治療、個別化治療、ゲノム医療は大きな前進を遂げてきました。特にゲノム解析技術の発展や AI を活用した診断技術の進化により、患者一人ひとりに適した医療の実現が着実に近づいています。しかし、がんの本質的な克服には、医療者のみならず、行政、産業界、患者・市民が一体となった「オールヒューマニティ」の連携が不可欠です。

「攻めなければ負けしかない」という強いメッセージのもとに、多様な立場の人々が一堂に会し、がん撲滅という共通の目標に向かって議論を交わす本サミットは、人類の未来にとって極めて重要な機会となります。大阪・関西万博 2025 という国際的な舞台において、がん撲滅への道筋を世界に発信されることは、次世代への大きな希望にもつながるものと確信しております。

私自身も、長年にわたり個別化医療やがんゲノム研究に携わってきた立場から、本サミットの理念に深く共感しております。国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所は「治らない病気を治すことができる病気に」「健康で長生きできる社会の実現」を目指して、皆様とともに、引き続き貢献してまいります。

本サミットのご成功と、関係者の皆様のご尽力に深く感謝を申し上げるとともに、がん撲滅に向けた力強い前進がなされることを心より祈念いたします。

ノーベル賞候補 メッセージ

坂口　志文

WPI 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター・
実験免疫学 特任教授

新しいがん免疫療法に向けて

がん免疫療法は、現在、新しい時代を迎えようとしています。

ここ 10 年、抗 CTLA-4 抗体、抗 PD-1 抗体など、免疫共刺激分子もしくは免疫抑制分子シグナルを調節し抗腫瘍免疫応答を賦活化、強化するがん免疫療法の有効性が示されてきました。今後も、難治性がんに対しても効果的ながん免疫療法が開発され、がん免疫療法は、外科的切除、放射線療法、化学療法に続く第 4 のがん治療法として確立されていくでしょう。

一方、現在免疫チェックポイント阻害抗体は主として進行がんに使われていますが、将来に向けては、初期がんに対しても使える効果的ながん免疫療法を開発する必要があります。がん免疫療法では、がん細胞を特異的に攻撃するリンパ球が、がん抗原に対して特異的に感作され、活性化、増殖、そして免疫記憶を獲得し、がん細胞を持続的に攻撃するのみならず、体内に隠れている、あるいは転移したがん細胞をも攻撃してくれることが期待されます。

そのような強いがん免疫応答を惹起するためには、むしろ、体内にがんが見つかり、がんを取り除く前、すなわち、がん抗原が体内に存在する時点から免疫療法を始める方が効果的で、がん転移の抑制、再発予防にもつながります。

このような初期免疫療法の開発には解決すべきいくつかの課題があります。例えば、どのようながんに対しても有効であること、また高い安全性が要求されます。経口での服薬が可能な簡便性も重要ですし、医療経済的には安価である必要があります。

がん撲滅に向けて、「がんと診断されたその日から始める免疫療法」が実現できるよう研究を進めたいと思います。

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長 メッセージ

嘉山　孝正

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長
東北大学・参与
YMG（戸田医療グループ）医療政策特別顧問
戸塚共立いずみ野病院 名誉院長、脳神経外科研究所 所長

本年度も故中見利男先生の御意志を引き継ぎ『世界がん撲滅サミット2025 in 大阪・関西万博』が催されます。本サミットは初年度から「がんの医学的な課題や医学を受け取る患者さんが持っている課題」を現場から掘り起こしてきました。その作業が、総括的ではありましたが一通り終了しました。従って、本サミットはゆっくりですが、着実な歩みで国内の癌の種々の課題を見渡してきたのが一昨年までです。昨年度は、原丈人先生の御指導で「世界の医療制度を変える！特にがんの分野に係る諸制度を変革する。」といったテーマで議論を行いました。更に進化して今年度は海外の代表的な都市の首長が大阪万博の会場に集まり、議論を行います。がん医療の現場からの意見から進化して、国際的な代表的な人の意見を聞いて「がん撲滅」を目指したのが本年度だと言えます。故中見利男先生も確実な本サミットの進化をお喜びと推察いたします。

近年、日本も含む世界の社会のカオス化が年々増加しているように思われます。地球上のヒトの発生からその歴史を経て培ってきた「自分（ヒト）の営みの評価」が混沌（カオス）としてきています。「営みの評価」とはヒトが行動する際に無意識に行っている価値判断のことです。価値判断とは人々（自分）の行為の「善」、「悪」の評価のことです。「農業はヒトにとって良かったか？ヒト滅亡の原因か？」。人々の分断も雑駁に言えば「価値観の分断」と言えると思います。

カオスの原因には、従来の歴史観が大きく修正された事にもなります。従来の歴史的事実が修正され、その結果歴史的事実が異なれば歴史観も変化してきます。遺伝子解析の技術の進歩、遺跡の発掘の世界的隆盛、古代だけではなく近代の文書の掘り出しの進歩に従来の歴史観が修正を余儀なくされています。特に遺伝子解析技術が超急速に進歩した2000年（この年にヒトの全ゲノムの解析ができるようになりました。以後解析時間速度も早まり、現在ではヒトゲノム解析は1日で出来てしまいます。）以降、従来の歴史的事実（エビデンス）の解釈が大きく変化しました。その結果歴史観の変化が起こらざるを得なくなりました。当然、歴史観が異なればヒトの価値観も変わってきます。「善」、「悪」の価値観も変わるでしょう。平たく言えば、従来の歴史の間違いに気づき、この社会の見方を人々が変えてきているのがまさに現代と言えます。

今後は世界の分断や紛争が起きない世界を目指すとするならば、ヒトが何を行うことが「善」であり、何が「悪」であるか、あるいは何が「灰色」で良いのかといった価値観を再度哲学的に考える時期に来たのではないかと思います。「がん医学、医療」で言えば、医学、医療の意味や使命は何なのかを再考する時期と思います。

大阪国際がんセンター 総長 メッセージ

松浦　成昭

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター 総長

大阪はがんの多い地域です。20 年前までがん死亡率はわが国の 47 都道府県の中で最も高い県でした。その後、行政・医療関係者の努力で少しずつ良くなり最下位は脱したものの、まだ不十分で、現在も後ろの方ですので、さらに頑張る必要があります。このような時期に世界がん撲滅サミットが大阪で 5 回目の開催をされることを心から期待申し上げます。

がん撲滅サミットは医療者だけではなく、政・財・官、そして患者・家族を初めとした市民の皆様も一緒になって、がんの撲滅を目的として行われるものです。様々な分野の最前線で臨床・研究に取り組んでいる医療者が集まり、市民の方々と本音で意見交換をすることが最大の特徴です。オールジャパンとして始まりましたが、視野を大きく世界に広げて挑戦するということで、世界がん撲滅サミットへと発展を遂げました。誰もがこのサミットに結集し、実のある議論をすることにより、がんの撲滅に向けた大きな一歩になるようにしましょう。

がんの治療成績は全体としては大きく改善しましたが、いまだ高度進行がん・再発がんに対する治療は十分ではありません。延命期間は延びていますが、最終的には不幸な転帰となる場合が多く、さらなる努力が必要です。また、がん医療の進歩とともに、患者さんが元の生活に戻るための支援を行うことも重視されるようになりました。がんが治ることはもちろん大切ですが、治ればそれでよいというものではなく、QOL を維持して、毎日の生活を送ることも同じくらい大切です。様々な支援を行うとともに、できるだけ負担の少ない治療法を考えていかなくてはなりません。

このがん撲滅サミットは第一線のがんの研究者・臨床家が集いますが、主役はこのような一般市民の皆様です。このサミットでがん医療の最前線を知るとともに、十分に議論し意見交換することが大切です。受け身ではなく、攻めの姿勢・積極的な意気込みで皆の叡智を結集することが、名前の通りがんの撲滅を目指すことに繋がります。一人でも多くの人の積極的な参加と議論をお待ちしています。

公益社団法人 日本医師会 会長 メッセージ

松本　吉郎

公益社団法人 日本医師会 会長

この度の「世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博」の開催につきまして、心よりお慶び申し上げます。

現在、わが国では国民の 2 人に 1 人が一生に一度はがんに罹患すると言われており、年間約 40 万人の国民ががんで亡くなっています。国としては、第 4 期がん対策推進基本計画において、全体目標を「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」として掲げ、厚生労働省を中心に、地方公共団体、また、がん患者を含めた国民の皆様、医療従事者及び民間企業、マスメディア等が一体となって目標の達成に向け、様々ながん対策を講じているところです。

日本医師会では、地域での日々の医師会活動を広く知っていただくために、一昨年度より「地域に根ざした医師会活動プロジェクト」を実施しております。本年 5 月 25 日は「がん対策 ～予防、医療、共生～ 」をテーマに第 4 回シンポジウムを開催しました。日本医師会及び全国の医師会は、がん対策を始め地域保健・公衆衛生活動に真摯に取り組んでおり、本シンポジウムを通じて、そのような取り組みへの理解が深まったことと思います。地域のかかりつけ医が中心となって専門医や多職種と連携し、今後も地域を面として支えられるよう尽力してまいる所存です。

また、がんと密接に関連する「禁煙対策」についても注力しています。日本では毎年およそ 19 万人が喫煙に関連する病気で亡くなっていると言われていますが、タバコは喫煙者本人だけでなく、周囲の人が吸い込む煙にも多くの有害物質が含まれているため、受動喫煙をなくすことも求められています。

日本医師会では、禁煙推進活動の一環として、会員の喫煙の現状とその関連要因に関して把握することを目的に、 4 年ごとに「日本医師会員喫煙意識調査」を実施しています。昨年の調査では、加熱式たばこに関する意識や使用実態についての質問も設けましたが、調査結果からは、医師でさえ加熱式たばこの正確な情報の説明が難しいことがわかりました。このことから、加熱式たばこや新型たばこに関する情報発信が喫緊の課題であると考えております。引き続き、関係諸団体と連携を図りながら喫煙防止啓発活動を推進していきたいと考えております。

がん対策の推進に向けては、関係者がそれぞれの立場で、引き続き着実な取り組みをしていかなければなりません。日本医師会としましても、今後とも、がん撲滅に向けてより一層取り組んで参る所存であります。

毎年この時期に、関係者の皆様が一堂に会することは、大変意義深いものと考えております。本サミットが実りあるものとなりますことを切に願い、私からの挨拶とさせていただきます。

大阪府医師会 メッセージ

加納　康至

一般社団法人 大阪府医師会 会長

「世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博」の開催、誠におめでとうございます。また、本サミットがこの大阪の地で開催されますことに対して、心より歓迎申し上げます。

本年のサミットにおけるテーマは「最先端科学技術と公益資本主義の理念で『がん撲滅』を成し遂げよう！」であり、大阪府医師会にとってもその役割は非常に大きいと感じております。

ご存知の通り、日本は現在において平均寿命はもちろんのこと、高齢になっても QOL を維持することに長けており、世界からも注目されております。それは日本が「衣・食・住」という生活環境が向上し、良質な保健や介護の領域を育んだことに加え、公害や下水道やごみ処理に至る衛生上の問題にも積極的に取り組んできた証であります。しかし、何といっても医学の進歩の影響力は特に大きく、医学領域では疾病に対する最新の知見を臨床で活かす研究が日々進められております。その他、がん撲滅との闘いの中で日本国内外を問わず、私たちの仲間が独自の視点から突破口を見出そうと日々、奮闘をしております。

医学や医療は公益資本主義であり、単に利益を求めるのではなく、教育や司法と同様に「公」が万人に等しく保障するという理念に基づき維持されるべきものであります。国民皆保険制度を堅持することは、社会保障の充実に繋がり、医学の知識や医療提供体制は国民にとって共有の財産でなければなりません。

さて、大阪・関西万博は間もなくフィナーレを迎えようとしております。「いのち輝く未来社会のデザイン」というメインテーマで開催された万博と、世界がん撲滅サミットは非常に深い関わりがございます。万博をただイベントとして終わらせることなく、「いのちを救う」、「いのちに力を与える」、「いのちをつなぐ」ことは我々が責任を持って次の世代に繋がなければなりません。そのためには「世界がん撲滅サミット」が更に充実するよう、今一度、一致団結して取り組んでまいりましょう。

一般社団法人 日本経済団体連合会 メッセージ

安川　健司

一般社団法人 日本経済団体連合会 審議員会 副議長
アステラス製薬株式会社 代表取締役 会長

『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』の開催を心よりお慶び申し上げます。また、当サミット開催にご尽力されました関係者の皆様に深く敬意を表します。

画期的な新薬で世の中のアンメットメディカルニーズを満たすことこそが製薬産業の存在意義であると考えています。がん研究や治療法は世界中で急速に進歩していますが、国内に目を向けると、国民が高品質かつ革新的な医薬品にアクセスできないという、ドラッグラグ・ロスという課題が生じています。実際に、海外では承認されているにもかかわらず、国内では未承認の抗がん剤の数は増加傾向にあります。

ここで皆様にご理解いただきたいのは、その要因が製薬業界の科学的な能力の不足にあるのではなく、主に薬価制度の課題によって日本の医薬品市場の魅力が損なわれているという「経済的な要因」にあるということです。そうした状況から、私は本年 6 月に開かれた「創薬力向上のための官民協議会」において、研究開発の推進と医薬品の価値評価の在り方について提言し、特にドラッグラグ・ロス解決に向けた課題として、影響の大きい経済的要因が十分に考慮されていない現状を国に訴えました。この解決には、薬価引き下げによる医療費削減というような縮小均衡策ではなく、社会保障制度自体の抜本的な改革が必要だと考えます。

いまこそ、全てのステークホルダーが一丸となって改革に向けて動き出すときです。経団連では、日本の未来社会の姿を描く「Future Design 2040」を作成し、「人口減少下であっても全世代が安心し、能力に応じて共に支えあう、公正・公平で持続可能な中福祉・中負担程度の社会保障制度構築」を目標に掲げ、改革の検討に取り組んでいます。

がんは 2 人に 1 人が罹る病気であり、誰もが罹る可能性がある大きなリスクの典型です。「大きなリスクは公助、小さなリスクは自助」という意識をもち、政治家任せにせず、国民一人ひとりが、この皆保険制度の基本原則に立ち返り、自らの問題として向き合う必要があります。社会保障制度改革の必要性について、一人ひとりが声をあげていくことで、それが世論となり、政策に反映されていくものと考えます。

「いのち輝く未来社会のデザイン」を掲げる大阪・関西万博の舞台で開催される本サミットが、がんと向き合う方々にとって 希望の灯となり、日本から世界へ、国内外の連携をさらに深化させる契機となることを心より願い、メッセージといたします。

公益社団法人 関西経済連合会 会長 メッセージ

松本　正義

公益社団法人 関西経済連合会 会長

『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』の開催に際しご挨拶申し上げます。

2021 年から大阪にて実施されている本サミットが、今回は大阪・関西万博の開催にあわせ、万博会場内の「テーマウィークスタジオ」にて開催されますことを喜ばしく思います。主催者の皆さまのご尽力に心から感謝と敬意を表します。

国内には、がんに苦しむ患者、またそのご家族が多くいらっしゃいます。皆さまの願いは一つ、本サミットのテーマである「がんの撲滅」です。がんに関する新たな手術や薬の研究に加え、希少がん・難治性がんへの対策が一刻も早く求められています。

関西には、神戸医療産業都市、彩都（国際文化公園都市）、うめきたに加え、昨年開業した「Nakanoshima Qross」などに、バイオ･ヘルスケアに関連する企業や研究機関が多く立地しています。

また、本年 6 月には、大阪・関西万博にあわせて、医療・ヘルスケア分野に特化した国際見本市「Japan Health」が初めて開催され、国内外から多数の企業や医療関係者が来場されました。さらに、万博会場内でも数多くのパビリオンで再生医療をはじめとする医療・ヘルスケア分野の最新技術の展示が行われ、一般の来場者の方に身近に感じてもらうきっかけをつくっています。

国内外から人々が集い、医療・ヘルスケアについて考えるきっかけを提供する万博会場は、本サミットの開催にふさわしい場所ではないかと存じます。そこで、多くの皆さまのがん撲滅への思いが一つになり、産・学・官が連携して取り組むことを確認する場になることを期待いたしております。

本サミットのご盛会とご参加の皆さまの益々のご健勝とご多幸を衷心より祈念し、私からのメッセージとさせていただきます。

世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博 顧問 メッセージ

清水　美溥

『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』顧問
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長

「世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博」の開催、誠におめでとうございます。

本サミットの提唱者、ファウンダーであり、ここまで素晴らしいサミットに仕上げられました中見先生は亡くなられましたが、奥様が先生の意志を引き継がれ、今回も無事に開催できる運びとなりました。

特に今回は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする「大阪・関西万博」の場内のスタジオで開催できるという事で、まさに全世界に「がん撲滅」をアピールするには最高の機会となりました。

「いのち輝く社会」を実現する為には、その一つとして人類を最も恐怖に陥らせるがんを撲滅しなければなりません。

特に日本人では、男性 65% 女性 50%が、がんに罹患します。誰しも、がんと診断されれば死を意識するほど恐ろしい病気です。年々新しい治療法が開発されてきていますが、全てのがん患者さんを救う事ができず、今もなお死因の 1 位であります。

このような怖いがんに対し、いかにこれを撲滅させようという壮大な試みが「がん撲滅サミット」であり、本会議は、医療だけでなく政・財・官・そして患者の皆さんやそのご家族と一緒に、オールジャパン、全世界協力してがん撲滅に向け取り組むことを目的としています。

この会議の開催により、「がん撲滅に向けて一緒に闘おう」という気持ちを皆で共有できたら幸せです。

今後共、皆で協力して「がん撲滅」目指して頑張りましょう。

大阪大学 名誉教授 メッセージ

杉山　治夫

大阪大学大学院 医学系研究科 招聘教授
大阪大学 名誉教授

世界がん撲滅サミットは早くも第 12 回目を迎えるまでになりましたが、本サミットの提唱者・ファウンダーであります故中見利男代表顧問に思いを致しながら、執筆させていただきました。

がんは、人類を最も恐怖に陥らせる病気であると思います。がんは、日本人男性の約 65％、女性の約 50％が罹患いたします非常に頻度の高い病気です。がんと診断されましたなら、だれしもが、死を意識するほどの極めて恐ろしい病気であると思います。医学の進歩により、近年、多くのがん治療法が開発されてきましたが、これらの最新がん治療法をもってしましても、すべてのがん患者さんを救うことがかなわず、今もって、がんは極めて恐ろしい病気であり続けております。この極めて恐ろしいがんを撲滅することは、人類の悲願であります。

がんの治療法は、長きにわたり、手術療法、抗がん剤療法、放射線療法が 3 大がん治療法として、がん治療のすべてを担ってきましたが、近年の免疫チェックポイント阻害剤の成功を発端にして、免疫療法が第 4 のがん治療法として確固たるものになりました。

さらに、がんの治療法には、抗体療法、ウイルス療法、粒子線療法、光力学療法、温熱療法、遺伝子導入免疫細胞療法、収束超音波療法、血管塞栓療法など、多くのものがあります。また、抗がん剤に抗体を結合させた複合薬は、標的のがん細胞に高濃度の抗がん剤を作用させることができ、副作用を抑え、今までは殺すことが出来なかったがん細胞も殺すことができるようになりました。がん標的抗原に対する T 細胞抗原レセプター遺伝子を体外で患者さんの T 細胞に導入し、患者さんに戻す CAR-T 療法が、悪性リンパ腫で始まりましたが、その有効性から、急性白血病や多発性骨髄腫まで拡大してきました。今は、固形癌にたいする CAR-T 療法の開発が待たれております。

がんを完治させるためにはがん幹細胞を撲滅させることが必須でありますが、このがん幹細胞を撲滅できるのは、免疫療法のみと考えられています。手術、抗がん剤、放射線療法でがんが完治する人は、自身のがん免疫能が十分な人と考えられます。よりまして、がんの完治のためには、免疫療法は必須の治療法であります。

私は、WT1 ペプチドがんワクチンを開発しておりますが、製薬化されました暁には、がん治療のゲームチェンジャーになるものと思われます。

本サミットでは、がん撲滅に向かっての多くの知見が得られるものと期待いたしております。

砂塚（すなづか）　敏明（としあき）先生「大村天然物と創薬 Omura natural products & Drug Discovery」

北里大学 学長 教授
北里大学大村智記念研究所 特任教授
（学）北里研究所 理事

［略歴］

1988年　博士（薬学）（北里大学）
1988年　ペンシルバニア大学 博士研究員
1990年　（社）北里研究所 主任研究員
1994年　北里大学 薬学部 専任講師
2002年　北里大学 北里生命科学研究所 准教授
2005年　北里大学 北里生命科学研究所 教授
2020年　北里大学 大村智記念研究所 所長 教授
2024年　北里大学 学長 教授
　　学校法人北里研究所 理事
　　大村智北里大学特別栄誉教授のもとで「微生物創薬」を行っており後継者である

［受賞］

1996年　二宮善基 記念賞
1998年　有機合成化学協会 奨励賞
2002年　住木・梅澤 記念賞
2003年　森村豊明会 奨励賞
2007年　日本薬学会 学術振興賞
2009年　有機合成化学協会 生命有機化学賞
2020年　北里柴三郎 記念賞
2020年　有機合成化学協会賞
2021年　日本薬学会賞
2024年　日本農薬学会 業績賞

トークセッション プロフィール

司会進行

原（はら）　丈人（じょうじ） 先生

『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』大会長
アライアンス・フォーラム財団 会長
（国連経済社会理事会の特別協議資格を有する合衆国非政府機関）
香港中文大学医学部栄誉教授、大阪大学医学部大学院招聘教授
香港理工大学工学部栄誉教授、大阪公立大学特別客員教授

［略歴］
大阪府生まれ。27 歳まで中米考古学研究の後、渡米し在学中に起業。
1984 年　デフタ パートナーズを創業、米・英・イスラエルで情報通信、半導体、ライフサイエンス分野のスタートアップベンチャーに出資、経営参画し、世界的企業へと成長させた。
近年は、「天寿を全うする直前まで健康であることを実現することができる世界最初の国を創る」という理念を実現するために、DEFTA Healthcare Technologies, L.P.（事業開発会社）を設立し「技術イノベーション」「制度イノベーション」「エコシステム」の構築に取り組み、米欧日で革新的技術の事業化に取り組んでいる。
一貫して株主資本主義に警鐘を鳴らし、公益資本主義の実現を提唱し、香港中文大学経営学大学院招聘教授、大阪大学医学部大学院招聘教授として若者に理念を説く。
国連政府間機関特命全権大使、ザンビア大統領顧問、米共和党ビジネスアドバイザリーボード名誉共同議長、日本の財務省参与、国連経済社会理事会の特別協議資格を有するアライアンス・フォーラム米合衆国公益財団会長など国内外で公職を歴任。

【著書】『富める者だけの資本主義に反旗を翻す』（新潮社）
『公益資本主義』（文春新書）
『新しい資本主義』（PHP 新書）
『増補 21 世紀の国富論』（平凡社）

砂塚（すなづか）　敏明（としあき） 先生

北里大学 学長 教授
北里大学大村智記念研究所 特任教授
（学）北里研究所 理事

［略歴］講演者プロフィール参照

スジュアン・バ 先生

米国国立がん研究募金（NFCR）理事長

［略歴］
がん研究の国際的リーダーの一人であり、米国がん研究財団（NFCR）の理事長兼 CEO を務めています。 また、AIM-HI がん研究支援基金の CEO 兼共同創設者、アジアがん研究支援財団の創立者兼 CEO です。 膠芽腫に特化した適応型臨床試験プラットフォーム「GBM AGILE」を立ち上げ、革新的な研究を推進しています。
2024 年に「医学パイオニア賞」など複数の賞を受賞し、グローバルヘルス分野のトップリーダーに選出されました。がん研究の資金調達や国際的な協力プラットフォームの設計に注力しています。
スジュアン・バ博士は、がん研究のイノベーションと非営利組織のリーダーシップにおける国際的専門家です。ハイリスク・ハイリターン型のバイオメディカル研究への資金調達や、がん発見を加速するグローバルパートナーシップの構築に取り組んでいます。慈善団体や研究機関の資源を活用し、科学的発見を臨床応用へとつなげる国際協力プラットフォームの設計を主導。さらに、民間・公的機関との連携を通じて、腫瘍学分野の研究者や起業家を支援し、科学的公平性と革新を促進しています。

チャクシン・ラウ 先生

香港大学副学長、医学部長

［略歴］
香港大学副学長であり、リウマチ学のパイオニアです。
香港関節炎・リウマチ財団を設立し、リウマチ患者支援に貢献しています。EULAR の名誉会員、Academia Europaea の会員に選出され、国際的な影響力を持つ医学者です。
ラウ教授はまた、香港大学医学部（HKUMed）の医学部長として、がん研究を含む最先端医療の推進に貢献してきました。HKUMed は世界有数の医学部として、感染症、精密医療、そして肝臓がん・肺がんに対する標的療法や免疫療法の分野で画期的な成果を挙げています。2024 年には、HKUMed の教授 32 名が「Highly Cited Researchers」に選ばれ、がん研究に関しても国際的な影響力を発揮しました。ラウ教授のリーダーシップのもと、HKUMed は QS 世界大学ランキングで医学部として世界第 24 位、アジア第 2 位にランクされ、がん研究の最前線を担う存在となっています。
ラウ教授は、米国内科医師会、米国医学アカデミー、シンガポール医学アカデミー、シンガポール内科医師会、タイ王立医科大学、マレーシア医学アカデミー、アイルランド王立医科大学、香港医学アカデミーの名誉フェローを務めています。

マーク・J・ラテイン 先生

シカゴ大学プレシジョン医療研究センター センター長・教授

［略歴］
マーク・J・ラテイン（Mark J. Ratain）博士は、進行固形癌の治療における治験薬の使用、及び市販薬の臨床薬理学の専門家です。
長年にわたり、がん新薬の臨床開発に従事し、最近では、患者様個別の処方を導くための薬理ゲノミクスの利用や、低用量、低頻度投与、治療期間の短縮、そして代替治療法の利用による処方コストの削減を目指す介入薬剤経済学に研究の重点を置いています。
ラテイン博士は、第 I 相臨床試験、薬理遺伝学、臨床試験方法論の国際的リーダーであり、最近、介入薬剤経済学という新しい学問分野を創設しました。
現在、シカゴ大学医学部のレオン・O・ジェイコブソン記念講座の教授を務めています。同記念講座の教授のほか、同大学の個別化治療学センター長、シカゴ大学医学部病院の首席薬理学者でもあります。

世界がん撲滅大阪・関西万博宣言 2025
――患者に希望の光を――

1961 年 5 月、アメリカの J . F. ケネディ大統領が「ニューフロンティアを目指そう」とアポロ計画を提唱した結果、人類は月面に着陸することができた。

そして 21 世紀の現在も米国、ロシア、中国などの国家や民間が次々と月や火星を目指し、日夜しのぎを削っており、そのニューフロンティアは依然として宇宙にあると言っても過言ではない。

ケネディ大統領というたった一人の人間が約 60 年前に行動を起こそうと呼びかけたことで宇宙はニューフロンティアに変わり、そこから人類が受けた科学的技術的恩恵は計り知れないものがある。

しかし我々人類は未だに地球上にはもう一つのニューフロンティアが存在していることを忘れてはいないだろうか。

それこそが、『がん撲滅』という前人未到の大地である。

人類とがんの死闘は約 4 千年前から続いているが、悲しいかな人類はがんを撲滅するどころか、がんとその治療による副作用などの影響に圧倒されつつある状況である。しかし 2015 年 6 月、我々『世界がん撲滅サミット』は有志数人で立ち上がり、今や世界に向けてがん撲滅の理念と人類の連携を図るところまで成長した。

そして 2019 年 10 月にはアライアンス・フォーラム財団と日本政府が主催した『2019 World Alliance Forum in San Francisco』において、米国の重鎮たちに改めてがん撲滅の重要性と日米が連携して人類をがんから解放しようという呼びかけを行い、その結果、日米有志の働きかけによって 2022 年 2 月 2 日、ついに米国バイデン大統領による『2047 がん撲滅宣言』を引き出すことに成功したのである。それこそ、がん撲滅を目指すキャンサームーンショットプログラムの実行である。

かつて預言者イザヤはこう語った。

救世主の条件の 1 つは病を知っていることだ、と。

つまり彼によれば、たとえばがんや心臓病や難病などの患者から救い主が生まれるというのである。見方を変えれば、今、将来の救世主たちは病院や病床にいると言っても過言ではない。

想像してみよう。たとえば、がんから生還した子供たちは、イザヤの言うように将来素晴らしい政策立案者として世界を変えるかもしれない。もしかしたら、人々に夢と希望を見せるために芸術家になるかもしれない。あるいは、彼らは医学博士や科学者になるかもしれない。いや、もっといえば、彼らはがんを本当に根絶する素晴らしい治療法を開発することができるかもしれないではないか。それだけはない。病を克服した彼ら、彼女たちは家族に笑顔と喜びを与えてくれるのだ。

だからこそ我々は世界中の医療者、研究者いや人類全体にがん撲滅を呼びかけるのだ。
小児がんの病院や病床にいるあの子供たちをがんから救い出そう。病床にいる人たちを、そう将来の救世主たちを皆で力を合わせて救い出そうではないか。
人類をがんから解放しよう。
そのために我々はまず次の３つの計画を推進する。

① 患者の苦痛や身体的負担を軽減するため、また世界的な医療経済を改善するためこれまでとは全く違ったチャレンジを行う。それこそが世界の権威 マークＪ.ラテイン教授が唱える減量型抗がん剤治療の研究推進である。我々、『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』は患者に寄り添う視点から今、世界的に共同研究が行われている米国の減量型抗がん剤治療のネットワーク化とプロジェクトを支持する。

② 我々は戦術的にがんを予防するために腸内細菌の活性化、すなわち『腸内フローラ・フェニックスプロジェクト』を推進する。世界的なトップ企業に協力を求め、力を合わせることによってがん予防をはじめとする各疾病の予防に貢献する。

③ 一日も早く患者の手元に新しい有望な治療薬が手に届くよう条件付早期承認制度を世界に推進する。

そこで我々はここ大阪の地から世界に向けて、がん撲滅の旗頭として患者ファーストの医療を構築するためにがん医療界をいよいよ本格的に改革するために前進する。
我々は目覚めなければならない。これまでの古いがん医療にピリオドを打ち新しいがん医療の体制を構築することが今、求められているのだ。再びがん撲滅のニューフロンティアを目指し、世界の人々と連携しながら人類をがんから解放していこうではないか！
最大の敵は、それが不可能だと信じ込んでいる自分自身なのである。
恐れることはない。なぜなら、「不可能」は「可能」を生み出すからだ。
今、世界の患者のために、行動を起こそう。
さあ、立ち上がり、雄々しく前進を開始しよう！
力を合わせワンチームとなってがんを撲滅しよう。
最後に、古代ローマの哲学者セネカのことわざを紹介しよう。
「物事が難しいから、出来ないのではない。勇気がないから難しくしているのだ」
我々世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博実行委員会は世界の患者の希望の光となることをここに宣言する。

『世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博』
大会長　原　丈人

The World Cancer Eradication Summit Declaration in EXPO 2025

—— light of hope for patients around the world——

In May 1961, U.S. President J.F. Kennedy advocated the Apollo program to "aim for a new frontier," and as a result, humans were able to land on the moon.

Even now in the 21st century, major powers such as the United States, Russia, and China, as well as private volunteers, are competing day and night to reach the moon and Mars, and it is no exaggeration to say that the new frontier is still in space.

The call for action by a single person, President Kennedy, about 60 years ago turned space into a new frontier, and the scientific and technological benefits that humanity has received from it are immeasurable.

However, have we, humans, forgotten that there is still another new frontier on earth?

This is the unprecedented goal of "eradicating cancer as we know it."

Humanity and cancer have been in a deadly battle for about 4,000 years, but sadly, far from eradicating cancer, humanity is becoming overwhelmed, both by the disease and the consequences of its treatment. However, in June 2015, we, the "World Cancer Eradication Summit", was established by a few volunteers and has now grown to the point where we aim to unite humanity with the idea of eradicating cancer for the world.

In October 2019, at the 2019 World Alliance Forum in San Francisco, hosted by the Alliance Forum and the Japanese government, we reiterated the importance of eradicating cancer to American leaders and the cooperation between Japan and the United States to free humanity from cancer. At the same time, through the efforts of Japanese and American volunteers, on February 2, 2022, we finally succeeded in getting US President Biden to create the Cancer Moonshot, aiming to "end cancer as we know it."

The prophet Isaiah once said:

One of the conditions for being a savior is to be aware of illness.

In other words, according to him, a savior will be born from a patient suffering from cancer, heart disease, or an incurable disease, for example. Looking at it from a different perspective, it is no exaggeration to say that our future saviors are currently in hospitals and hospital beds.

Let's imagine. For example, children who survive cancer may become great policy makers and change the world in the future, just as Isaiah said. Maybe They'll become an artist to show people their dreams and hopes. Or they may become medical doctors or scientists. Or, more importantly, they might be able to develop a great treatment that truly eradicates cancer. That's not all. They have overcome illness and bring smiles and joy to their families.

That is why we call on medical professionals, researchers, and all of humanity around the world to eradicate cancer.

Let's save those children who are in pediatric cancer hospitals and hospital beds from

cancer. Let us all work together to save those who are sick in their beds, and indeed the future saviors.

Let's free humanity from the suffering of cancer.

To this end, we will first promote the following three plans.

1) We will take on completely different challenges in order to reduce the pain and physical burden on patients and improve the global medical economy. This is precisely what promotes research into reduced-dose anticancer drug treatment. We at the World Cancer Eradication Summit in EXPO 2025 support the network and project for reduced-dose anticancer drug treatment that is currently being jointly researched around the world from a patient-centered perspective.

2) We will promote the activation of intestinal bacteria, or the ``Intestinal Flora Phoenix Project,'' in order to tactically prevent cancer. By seeking cooperation from top global companies and working together, we will contribute to the prevention of cancer and other diseases.

3) Promote the conditional early approval system around the world so that new and promising therapeutic drugs can be delivered to patients as soon as possible.

Therefore, from here in Osaka to the world, we will move forward to fully reform the cancer medical field in order to build patient-first medical care as a leader in the eradication of cancer.

we have to wake up. There is now a need to put an end to old cancer medicine and build a new cancer treatment system. Let's once again aim for a new frontier in cancer eradication and work together with people around the world to liberate humanity from cancer!

Your biggest enemy is yourself who believes it is impossible.

Don't be afraid. Because "impossible" creates "possible".

Let's take action now for the benefit of patients around the world.

Now, stand up and start moving forward bravely!

Let's join forces and become one team to eradicate cancer as we know it.

Lastly, I would like to introduce a saying by the ancient Roman philosopher Seneca.

"It's not because things are difficult that you can't do them. It's because you don't have the courage that you make them difficult."

We, the World Cancer Eradication Summit in EXPO 2025 Executive Committee, hereby declare that we will be a light of hope for patients around the world.

"The World Cancer Eradication Summit in EXPO 2025"
Chairman George Hara

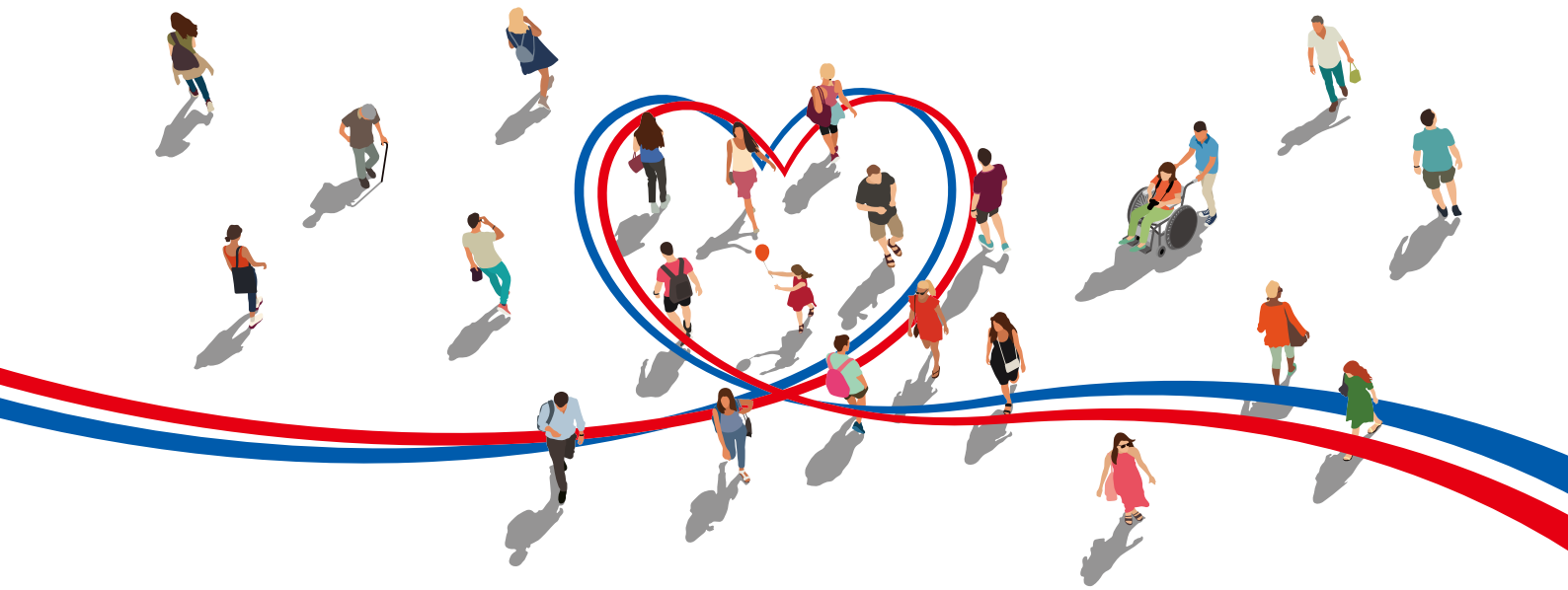
生薬には、
個性がある。

漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。

ツムラ

株式会社ツムラ　https://www.tsumura.co.jp/　資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。
医療関係者の皆様 tel.0120-329-970　患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930　受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日は除く）　2021年4月制作 審



治したいという情熱も、
支え合う優しさも、
すべて“ハート”からはじまる。
ロートはハートだ。

思えば、私たちの想いの真ん中には、いつも「人」がいました。
人の情熱に動かされ、人の想いに寄り添い、人の心も体も元気にしていくこと。
それこそが、私たちが最も大切にしてきたことです。

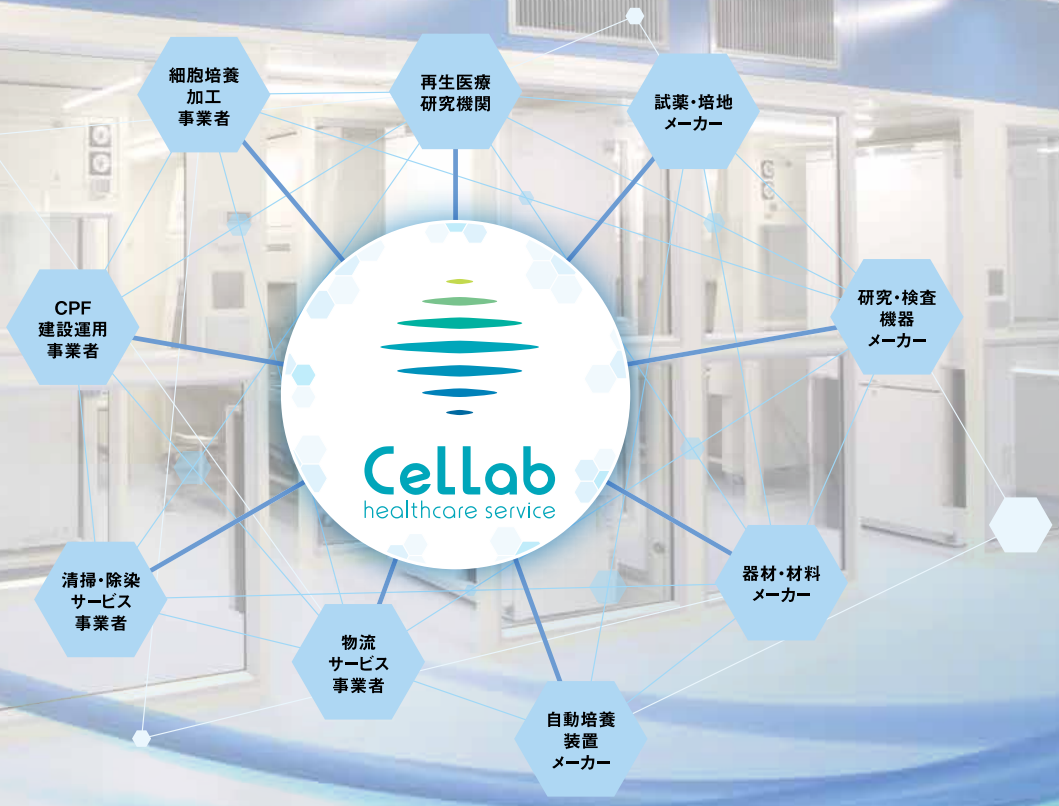
ひとりでも多くの方が笑顔で過ごせる未来を目指して——
私たちは、世界がん撲滅サミットの挑戦に深く共感し、
その活動に協賛いたします。

ロートは、ハートだ。

ROHTO

三井住友海上

再生医療の明日を拓く
「セラボヘルスケアサービス」



再生医療分野への新たな挑戦

ダイダン株式会社では、再生医療の普及と関連事業の創出を目指して、2017 年 4 月に
オープンラボ「セラボ殿町」を開設し、医療施設やベンチャー企業の皆様に、新発想で使いやすい
細胞培養加工施設（CPF）や、細胞培養加工に適した環境を構築する製品を開発してきました。
『セラボヘルスケアサービス株式会社』は、ダイダン株式会社がこれまで培ってきた技術と実績を引き継ぎ

- 細胞培養加工施設（CPF）の運用・構築コンサルティング、設計・監理
- 再生医療向けの装置・機器類の製造・販売
- 細胞培養加工施設（CPF）のレンタル、運用支援、細胞製造受託など

をはじめとした関連サービスを開拓して参ります。

Cellab
healthcare service

セラボヘルスケアサービス株式会社

ダイダン

【お問合せ先】
〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3 丁目 25 番 16 号 CYBERNICS MEDICAL INNOVATION BASE-A316
TEL: 044-276-5010　FAX: 044-280-0036　e-mail : cellab-info@daidan.co.jp

株式会社 エフ・アール・シー・ジャパン

社会実装への挑戦

日本発の、世界の人々に大きな貢献をする可能性のある研究や研究者を支援し、研究支援態勢や研究支援インフラを構築するために、様々なジャンル（事業・人材・テクノロジー・メディア・金融・不動産・制度政策）を繋ぎ、実装の実現に挑戦し続けます。

MIRAI TRUST INCORPORATED　TSUNAGU-Lab

アーク不動産株式会社

本　　社
〒541－0042　大阪市中央区今橋2丁目5番8号　　トレードピア淀屋橋
TEL.06－6231－7721(代表)　　FAX.06－6231－7722

東京支店
〒104－0031　東京都中央区京橋1丁目12番5号　　京橋YSビル6階
TEL.03－5159－2136(代表)　　FAX.03－5159－2175

名古屋支店
〒450－6040　名古屋市中村区名駅一丁目1番4号　　JRセントラルタワーズ40階
TEL.052－307－6301(代表)　　FAX.052－307－6302

九州支店
〒810－0001　福岡市中央区天神1丁目10番20号　　天神ビジネスセンター14階
TEL.092－738－5790(代表)　　FAX.092－738－5791

http://www.ark-re.co.jp

OSP GROUP

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO 2025

Osaka Healthcare Pavilion Nest for Reborn

FUTURE OF LIFE いのちの未来

OSPグループは、大阪・関西万博 運営参加の協力企業です。
大阪ヘルスケアパビリオンとシグネチャーパビリオン「いのちの未来」に協力しています。
©Expo 2025

暮らしを支える
シールを作る。

日々の暮らしの中で、当たり前にあるもの。

でもきっとそれは、なくなってしまうと困るもの。

コンビニ、スーパー、学校や職場、身近なところで

シールはいろんな役割を果たしています。

当たり前の毎日を支えるために

今日も私たちはシールを

作り続けています。

OSPグループは、“世界がん撲滅サミット2025 in 大阪・関西万博”に協賛いたします

【国内グループ会社】
- 株式会社OSPホールディングス
- OSPマシナリー株式会社
- OSPレーベルストック株式会社
- 大阪シーリング印刷株式会社
- 株式会社OSPトレーディング
- プリントビズ株式会社
- OSPアドバンス株式会社
- OSPハートフル株式会社
- オークテック株式会社

【海外グループ会社】
- PRIMARK AMERICA CORPORATION
- OSP LABEL (THAILAND) CO.,LTD.
- OSP Europe GmbH
- 大阪希琳閣印刷(蘇州)有限公司
- OSP CEBU CORPORATION
- 威海延豊膠粘印刷有限公司
- OSP AUSTRALIA PTY LTD

OSPグループ公式サイト

さまざまなニーズに合わせた
総合不動産会社です

ジャパン エステート株式会社

大阪本社　〒541-0042
大阪市中央区今橋２丁目５番８号トレードピア淀屋橋16F
TEL：06-6233-3188　FAX：06-6233-3187

東京本社　〒104-0061
東京都中央区銀座１-２-４ サクセス銀座ファーストビル６F
東京都中央区日本橋３丁目６番２号 日本橋フロント４F
※９月中旬以降転居予定
TEL：03-5159-1238　FAX：03-3564-0040
URL：https://japanestate.page/

Medical Service

メディカルサービス株式会社

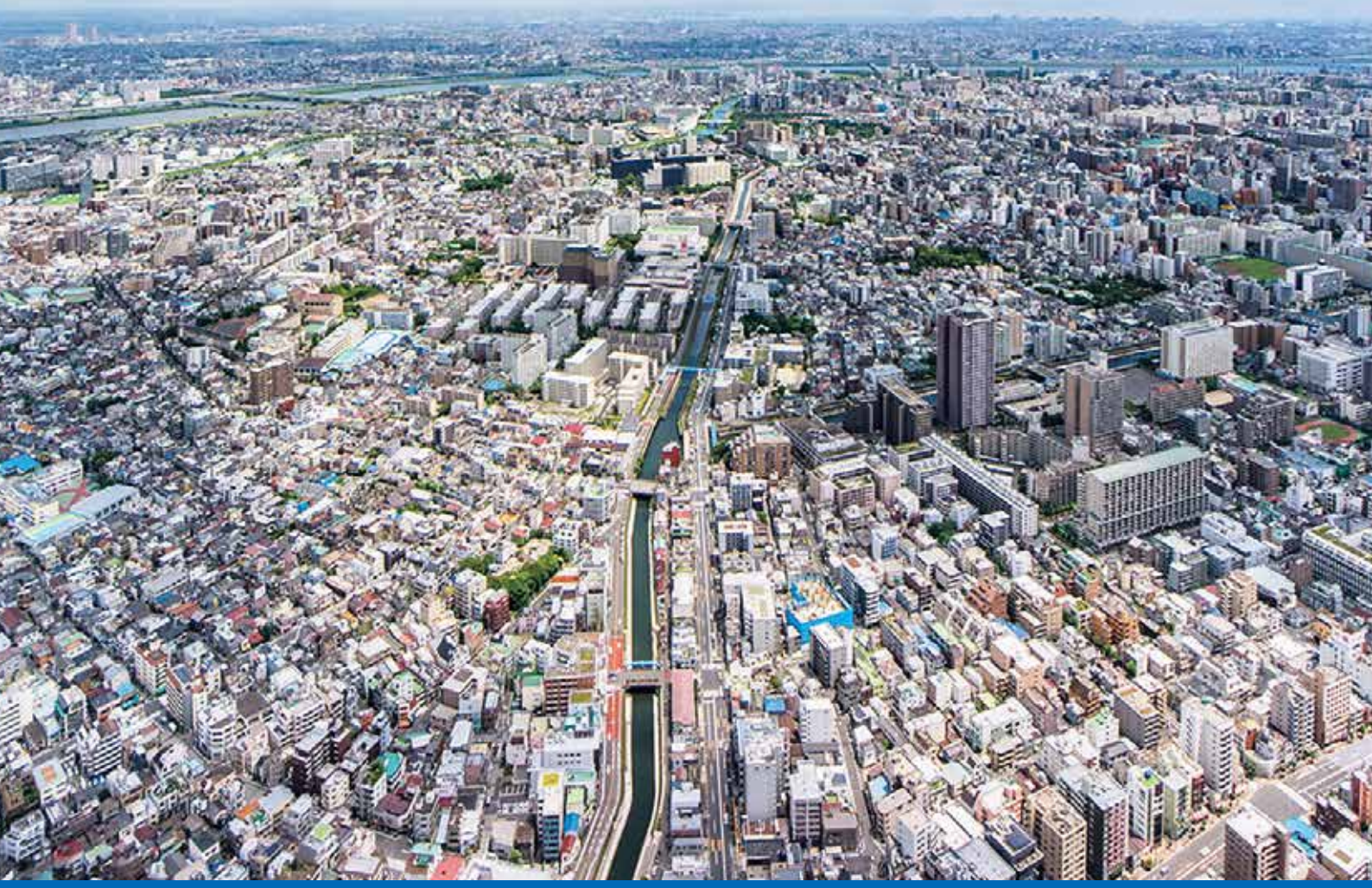
医療と保育を通して人々の笑顔のために

〒530-0013 大阪市北区茶屋町3番1号

TOSHIKAN

都市環境開発株式会社

私たち日本地工は、
お客様にとって価値のある
製品・サービスを
ご提案いたします。
オリジナリティーを追求した製品で、
お客様に感動を。



● アンカー事業　● アース事業　● 鋼製基礎事業　● 緑化・農園芸事業

日本地工株式会社

本社・工場／埼玉県川口市江戸袋２−１−２　TEL 048−283−1111
支社／札幌・仙台・大阪・福岡　営業所／関東各県・八戸・新潟・名古屋・広島

土の中のプロフェッショナル

日本地工

https://www.chiko.co.jp/

IDÉRA
CAPITAL MANAGEMENT

TOTO

TOTOの
ユニバーサルデザイン

つくるって、人を思うこと。

どんな人が使うかを、思う。
その人はどんなことに困るかを、思う。
その人はどうすれば快適かを、思う。
できる限りたくさんの「その人」を、思う。

モノをつくるとき、空間をつくるとき、
TOTOが最初から最後までですることは、人思い。
すべての人の、よりよい暮らしのために、
とことんすべきことは人思いしかない。
優しさと知恵と技術と努力。

ユニバーサルデザインは、TOTOのすべてです。

商品のお問い合わせは　TOTOお客様相談室　0120-03-1010　受付時間 9:00～17:00（夏期休暇・年末年始を除く）
TOTOユニバーサルデザインサイト https://jp.toto.com/ud

土壌汚染再生

美しい地球を　未来に残す

株式会社　オキ・コーポレーション

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 2-3-15
TEL　044-280-1701　FAX　044-280-1702
URL　www.oki-cp.co.jp

OKI CORPORATION

代表取締役会長　沖山　朝紀
代表取締役社長　沖山　朝俊

日本建設業連合会は
社会貢献活動を推進しています

アイサワ工業㈱	青木あすなろ建設㈱	あおみ建設㈱	㈱浅沼組	㈱安藤・間
伊藤組土建㈱	岩田地崎建設㈱	㈱大林組	㈱大本組	㈱奥村組
オリエンタル白石㈱	鹿島建設㈱	鹿島道路㈱	株木建設㈱	北野建設㈱
㈱熊谷組	㈱鴻池組	五洋建設㈱	佐藤工業㈱	清水建設㈱
ショーボンド建設㈱	西武建設㈱	㈱錢高組	大成建設㈱	大成ロテック㈱
大日本土木㈱	大豊建設㈱	髙松建設㈱	㈱竹中工務店	㈱竹中土木
鉄建建設㈱	東亜建設工業㈱	東急建設㈱	東洋建設㈱	戸田建設㈱
飛島建設㈱	㈱ナカノフドー建設	西松建設㈱	㈱ＮＩＰＰＯ	日本道路㈱
日本国土開発㈱	㈱長谷工コーポレーション	ﾋﾟｰｴｽ・ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝ㈱	㈱福田組	㈱フジタ
㈱不動テトラ	㈱本間組	前田建設工業㈱	前田道路㈱	松井建設㈱
㈱松村組	三井住友建設㈱	みらい建設工業㈱	村本建設㈱	寄神建設㈱
りんかい日産建設㈱	若築建設㈱			

日建連「社会貢献活動協議会」構成57社

魅力的なまちづくりの推進や豊かな住生活の実現を通じ、日本経済の持続的な成長に貢献してまいります。

昭和38年3月に社団法人として設立された不動産協会は、国民生活の向上と日本経済の持続的な成長に向け、土地、都市、住生活などに関わる諸問題について、様々な政策提言を行うとともに、調査・研究、社会貢献活動等に取り組んでおります。
今後も、大都市の国際競争力の強化、魅力的なまちづくりの推進、豊かな住生活の実現、環境への取組み等を通じ、持続的な成長の実現に貢献してまいります。

一般社団法人 不動産協会

理事長 吉田　淳一

事　務　局　〒100-6017 東京都千代田区霞が関３丁目２番５号（霞が関ビル17階）
電話 (03) 3581-9421　http://www.fdk.or.jp
大阪事務所　〒530-0005 大阪市北区中之島３丁目２番18号（住友中之島ビル２階）
電話 (06) 6448-7460
名古屋事務所　〒450-0001 名古屋市中村区那古野１丁目47番１号（名古屋国際センタービル８階）
電話 (052) 571-8050

豊かな住生活の実現に向けて

住団連は、構造・工法の枠を超え、幅広い住宅産業界団体と企業が一体となって、住宅・住環境・住宅産業に関する様々な課題の解決に取り組み、住宅の質と住環境の向上に寄与することを目的として活動を行っています。

良質な住宅や良好な住環境が、時々のニーズに対応して最新の技術によりリノベーションされ、長期にわたって住み継がれる本格的な住宅ストック型社会を構築し、国民一人一人がライフステージを通じて住生活の豊かさを実現できるような社会の実現のため活動を展開しています。

一般社団法人　住宅生産団体連合会

会長　仲井　嘉浩

積水ハウス株式会社　　大和ハウス工業株式会社
住友林業株式会社　　ミサワホーム株式会社　　三井ホーム株式会社

住団連

東京都千代田区六番町 3 番地　六番町 SK ビル 2 階
電話（03）5275‐7251
https://www.judanren.or.jp/index.html

住宅生産団体連合会　**検索**

「月のしずく」は、天然温泉施設「ゆの里」（和歌山県橋本市）に湧く2つの水をブレンドしたミネラルウォーターです。この水が生体内の水に近いということで神戸大学と研究を始めたのが2011年。2020年にはさらに発展して「ゆの里」の敷地内に水の研究棟「ゆの里アクアフォトミクスラボ」を新設しました。世界初のアクアフォトミクス技術センターと位置付けられています。

YUNOSATO
KONONO WAKAYAMA

「ゆの里」公式ホームページ https://www.spa-yunosato.com

Image Creation & Information Services
Express

はじめてを
はじめよう

先頭集団エキスプレスグループ

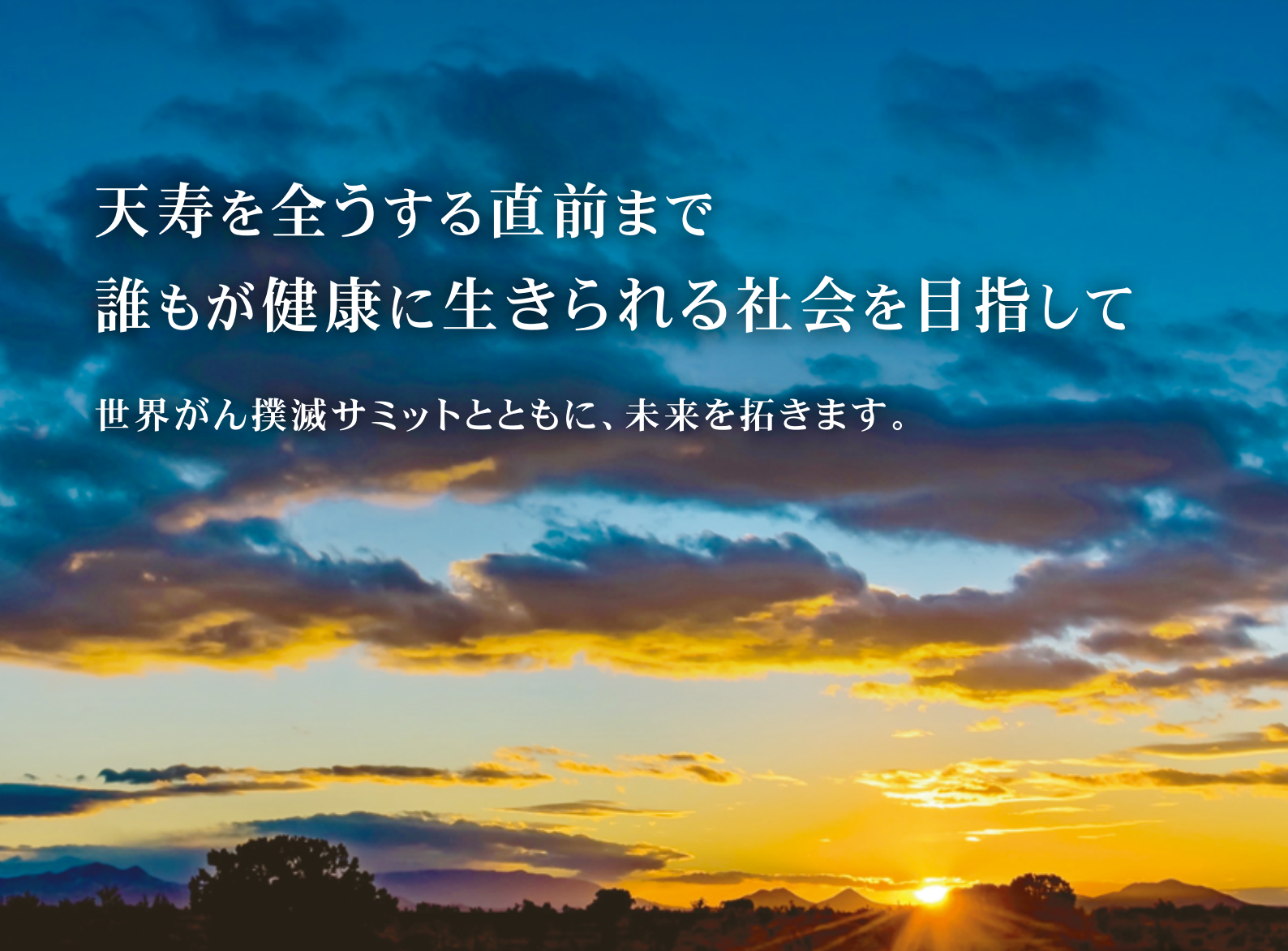
クリエイティビティ・技術・商品開発・営業活動に
次々とイノベーションの波を起こし
新しい価値を創造し続けます

www.express.co.jp

本大会開催にあたり、ご支援、ご協力をいただいた皆様、あえてお一人おひとりのお名前を挙げておりませんが心より感謝申し上げます。

引き続きご支援、ご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

世界がん撲滅サミット 2025 in 大阪・関西万博
実行委員会一同



天寿を全うする直前まで
誰もが健康に生きられる社会を目指して

世界がん撲滅サミットとともに、未来を拓きます。

財団の掲げる理念

世界中に教育を受けた
健康で豊かな中間層を創る

当財団は「世界中に教育を受けた健康で豊かな中間層を創る」ことを理念に掲げ公益資本主義の社会実装に取り組み、企業活動と社会的価値の両立を図りながら、誰もが教育、医療、経済的自立の機会を享受できる仕組みを構築し持続可能な社会の実現を目指しています。すべての国民が教育を受け、医療を享受し、経済的に自立できる機会に恵まれることで、健康に天寿を全うできる社会の実現に繋げていきます。

EVENT 1 2025年11月28日 開催
@ 慶應義塾大学　三田キャンパス

アライアンス・フォーラム財団 x 慶應義塾大学 KGRI
WHGCフォーラム

俯瞰せよ。思考せよ。変革せよ。
多視点・現場知・思考力を備えた戦略人材へ

EVENT 2 2025年12月16日 開催

ワールド・アライアンス・フォーラム東京円卓会議
2025WAF東京

富める者だけの資本主義に反旗を翻す

**明日からの行動が、
今日の議論に価値を与える**

社会の再構築に向けて、今何ができるのか？
真実を知り、自ら考え、実行せよ

allianceforum.org

ALLIANCE FORUM FOUNDATION
Organization in special consultative status with the UN Economic and Social Council

アライアンス・フォーラム財団
（国連経済社会理事会の特別協議資格を持つ合衆国非政府機関）